

福祉産業建設委員会

行政視察
10月24日
～25日

重層的支援体制の整備、 SDGs未来都市事業など学ぶ

重層的支援体制整備

事業に関する概要等、道の駅「京丹波味夢の里」での事業概要等、SDGs未来都市事業に関する概要、里山資源の活用等、本町事業の参考となる施策に取り組み、1市2町を訪問した。

10月24日

奈良県生駒市

●重層的支援体制整備事業

関西圏のベッドタウンであり、本町と同等の面積で、人口、世帯数ともに3倍をカバーする重層的支援体制を構築。地域共生サミットを開催するなど、「チームいこま」で先進的な取り組みを実践。新たな事業を組み込むのではなく、既存事業から追加項目を選出して引き継ぐ。

●わがごとカイギ

地域の課題は地域で解決するしくみ。支援のネットワークを作る前に、顔の見える関係を作っている。



重層的支援体制の意見交換

10月25日

京都府京丹波町
道の駅「京丹波味夢の里」

運営状況は、令和5年度計画に対し交通量は1.25倍、平均入り込み客数は2倍。年間レジカウントは108万人、売上19.5億円、日当たり7700人が立ち寄り好調。環境変化をバネに地域活性化に取り組まれている。

●京丹波ブランド検討委員会

大学生・高校生・観光協会・町・味夢の里スタッフにより、オリジナル商品を開発。アイデアで売り上げ増加。



道の駅事業の意見交換

●店舗型ふるさと納税システム

令和4年に、レジで寄附できるしくみ導入。立ち寄って地域を知ること、町が応援される取り組み。



施設ごとに説明を受ける

●その他

- ・イベントスペースでの定期イベント開催
- ・メディアPR
- ・京丹波道の駅連絡協議会の設置
- ・ホテル開業 など

大阪府能勢町

●SDGs未来都市事業

99%が市街化調整区域、今後20年間で人口半減などが地域課題。「地域資源が循環する里山未来都市」を掲げ、里山資源の活用に取り組まれている。

●供用車※ZEV導入

能勢町公共交通施策のひとつ。「経済やエネルギー、資源が循環するまちづくり」を掲げ、能勢・豊能地域で設立した新電力会社を基軸としたE.V化。

ことば解説

【※ZEV】
走行時に二酸化炭素などの排出ガスを出さない自動車



地元産材の先進的な役場庁舎

【所感】

これまでの本町事業が、人口増加や地域活性化に効果的であったことを再認識できた。組織体制構築などの大きな課題もあるが、参考にすべき先進地施策の反映に努めたい。

総務教育委員会

行政視察
10月21日
～22日

家庭教育支援方法や 防災対策を学ぶ

【大東市家庭教育支援事業】

	支援の目的	主な取り組み
1	児童の様子を把握し対応する	全小中学校に1人ずつスクールソーシャルワーカー配置
2	学校教育を円滑に進める	行政・学校・地域支援員でチーム編成
3	各家庭の不安、悩みなどの把握	小学校入学時、状況把握調査実施
4	子育て知識向上	子育て講演会の開催
5	不登校児家庭に向けた支援	企業と連携したお話し会実施

10月21日

大阪府大東市

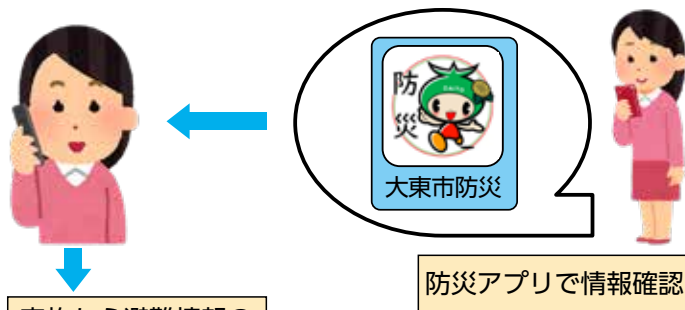
●家庭教育支援事業

10年前、学校が荒れ始め家庭も含めた関わりが必要と考え、左表の取り組みで一定の効果をあげている。

本町も参考にしたい。



家庭教育支援事業の説明を受ける議員



家族から避難情報の連絡を受け行動する

防災アプリで情報確認

●防災アプリ

独自の防災アプリ導入後1年半が経過。

現在の登録者数は、5万2000世帯中、7000弱。

災害時、住民に速やかに情報を伝達する目的でアプリ導入。シンプルかつ簡単に操作が出来るように作成したが、高齢者自身の使用に課題がある。家族が利用し情報を得て、高齢者への連絡で安全確保を図っている。本町でも防災に特化したアプリのプッシュ通知システム活用は防災力向上となるため、参考にしていく。

10月22日

兵庫県神戸市
人と防災未来センター



保存された2本の断層を確認

阪神淡路大震災の経験と教訓を継承し、防災・減災の情報を発信する施設。震災の状況を放映、展示している。来館者は建設から22年間で1000万人を超えた。1日1000人を超える人が国内外から来館している。本町でも、防災・減災に向けた学習が自助力向上に繋がるため参考にしていく。

淡路市
北淡震災記念公園

阪神淡路大震災時の状況を、旧北淡町役場職員が語りべとなり説明を受けた。

町内ほぼ全世帯が被災し、約300人が生き埋めになったが、当日お昼過ぎに全員救出。OBも含め住民の1割が消防団員として活動。住民同士の密な関係性があり、短時間的確な救出に繋がった。震災の教訓は

- ①隣近所とのコミュニケーションの大切さ
 - ②口頭の備えや訓練など防災意識の重要性
 - ③家屋の耐震・情報伝達方法を確立した災害に強いまちづくり
 - ④災害後のこころのケアの重要性
- 本町の安全テラスセンター24は、各地区の課題を改善中であり、視察資料等も活用していく。